



SBSビジネスレポート

2013年12月期 期末株主通信
2013年1月1日～2013年12月31日 証券コード:2384



SBS ホールディングス

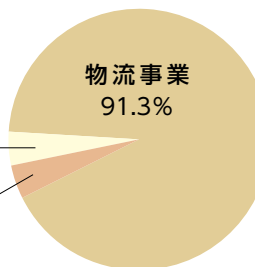
SBSグループは、あらゆる物流ニーズに優れた品質でお応えします。

当期の業績

■ 売上高	1,322億円
■ 営業利益	41億円
■ 経常利益	38億円
■ 当期純利益	15億円
■ 1株当たり配当金	40円 (普通配当 30円 + 記念配当 10円)

その他事業 4.4%
(人材、環境、
マーケティング、太陽光発電)

不動産事業
4.2%

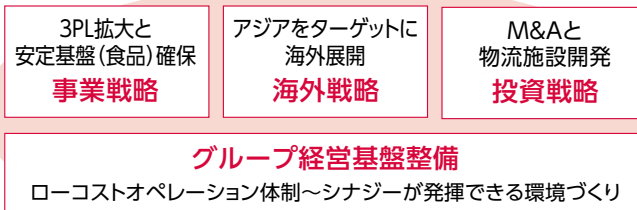


主力の物流事業に物流支援事業を加え、付加価値の高い物流サービスを提供

事業の概要



重点目標と戦略



3つの戦略

業界トップグループをめざす
**全方位の
物流機能を有する
3PL企業集団**

※本資料の将来の見通しに係る記述は、現時点で入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確定な要素を含む仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。



東証一部上場を機に、
「新生SBSグループ」の
さらなる成長に向け、
全力で取り組んでまいります。

代表取締役社長 鎌田 正彦

Q

当期(2013年12月期)の
業績について教えてください。

大変厳しい1年でした。

本業である物流事業については、前半、荷量減少や一部稼働率の低下により営業赤字となりました。後半からは、アベノミクスの効果もあり景気の持ち直しが見られ、年末までに業績を大きく回復させることができました。

個別案件としては、島忠様の大型3PL案件などを稼働させ、営業力と現場力の着実な成長を実感しました。また、タイや横浜にも物流施設用地を取得し、3PL業務の今後の拡大に向けた準備も整えることができました。

一方、不動産事業では、神奈川県横浜市に新たな大型センターの建設を開始し、2014年11月に竣工する予定です。また、京都府京田辺市に保有している西日本ロジスティクスセンターの信託受益権の51%を私募ファンドである「SBSロジファンド1号」に譲渡しました。

その他事業においては、人材事業の黒字化や新規事業である太陽光発電の利益も加わり、営業利益を大きく伸ばしました。

これらの結果、厳しいながらもグループとして売上・営業利益ともに前期実績を上回り、期初の目標もクリアすることができました。

Q

国内の物流業界の動向は
いかがでしたか？

円安による燃料価格上昇や電気料金の値上げなど、厳しい経営環境が続いています。特にお客様からの値下げ要求が続いており、物流事業者の見直しを行うコンペを実施する企業が増加しています。そのため同業者間の価格競争が一層激化しており、勝ち残るためにはさらなるローコストオペレーションの追求が必要です。また、ドライバー不足も深刻化しており、物流業界をとりまく環境はしばらく厳しい状況が続くと思われます。

Q

「SBSロジファンド1号」とはどのようなものですか？

3PL事業の拡大には新たな物流施設の開発が欠かせません。施設開発には多額の資金が必要ですが、借りに頼ると財務バランスが悪化します。従来は、売却して資金を回収してきましたが、今回は私募ファンド方式を採用しました。大手金融機関が組成した私募ファンド「SBSロジファンド1号」に物流施設の信託受益権を譲渡することで開発資金を回収しました。この資金を次の開発に投資することで3PL事業と施設開発を一体にした成長戦略が推進可能となります。

また、私募ファンドは、その一部に当社グループが投資するなど施設に対する関与を継続することでお客様との関係性が維持できると考えています。

**Q**

来期(2014年12月期)の取り組みについて教えてください。

厳しい環境のなか勝ち残るため、2014年は「Change or Die」(変化できなければ生き残れない)をテーマとして挑みます。全社員が危機感を持って業務に臨み、変化を恐れず、常に挑戦する姿勢を持ち続けて欲しいという想いを込めています。また次の4点を2014年のグループ方針とします。

- 1 3PLの更なる強化**
- 2 物流不動産開発の推進**
- 3 海外展開の推進**
- 4 M&Aの積極化**

3PL事業や物流施設開発の拡大と海外市場の拡充を柱にして業績を伸ばしていきます。利益面では、当期(2013年12月期)よりも10%程度の増益を想定しています。営業については全社的に強力な営業部隊を作り、インターネットサイトやダイレクトマーケティングを駆使して新規のお客様の獲得をめざしてまいります。

Q

中期の経営目標を策定されましたが概要をお聞かせ下さい。

創業30周年の2017年に売上高2000億円、営業利益80億円、営業利益率4%の達成をめざし「SBS Growth 2017」を策定しました。将来に亘り隆々たる企業に成長するため、グループ一丸となって達成に取り組んでまいります。

中期経営計画 <SBS Growth 2017>

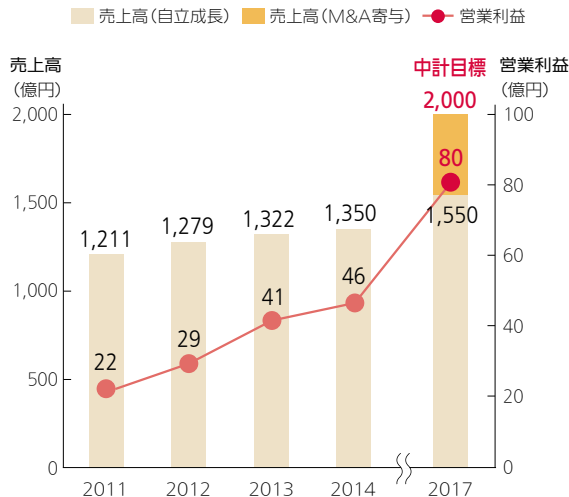
■ 当社グループが目指す姿

“全方位の物流機能を有する3PL企業集団”を結成し、日本国内に留まることなくアジアを代表する物流企業として業界トップグループ入りをめざす

■ 中期経営方針

- お客様に選ばれる現場力を磨く
- グループ力を結集する
- ベンチャースピリット集団であり続ける
- 持続的な成長を果たす
- コンプライアンス、CSRを重視する経営を貫く

■ 数値目標



Q

最後に株主の皆様にもメッセージをお願いします。

当期は、前期の東証二部上場に続き、念願であった一部への上場を果たすことができました。これも株主の皆様のご多大なご支援によるものと心より感謝申し上げます。また、グループシナジーの拡大に向けたグループブランド統一や、本格的な海外展開への体制整備など、SBSグループにとって大きな転換点となる年でした。

2014年からは、新生SBSグループとして世界で戦える物流企業集団をめざし、成長速度を加速させてまいります。

株主の皆様には、収益性を一層向上させ、株価の上昇や配当といった形で還元してまいります。

是非とも、ご期待下さい。

東京証券取引所市場第一部に上場

12月16日、SBSホールディングスは東京証券取引所市場第一部に上場いたしました。



タイに物流施設用地を取得、建設へ

初の海外物流センター建設、日本品質で日系企業のニーズ獲得を目指す

タイは、自動車や電機産業などの日系製造業が多数進出するASEAN域内でも有数の工業国となりつつあります。当社グループは、ASEAN地域での物流事業拡大に向け、同国内に物流施設用地を取得しました。

取得した土地は、タイ有数の工業地域イースタンシーボードにあり、面積は6万4千平米（約2万坪）に達します。同国最大の国際港であるレムチャバン港から約25kmという好立地であり、日系企業も多数進出している、生産・物流の一大拠点として急速な発展を遂げているエリアです。

延床面積1万平米規模の物流センター4棟と事務所棟、寄宿舍棟の建設を計画しており、2014年6月末にはセンター2棟と事務所、寄宿舍が先行して完成する予定です。

当社グループの物流施設開発と運営ノウハウを導入し、日本式のオペレーションを提供する高品質な物流センターに仕上げたいります。



長津田物流センターの本工事を開始

東名横浜町田IC2kmの好立地、食品対応可能な高機能大型物流センター

当社グループは12月、土地造成工事を進めていた長津田物流センター（神奈川県横浜市緑区）の起工式を実施し、2014年11月竣工に向け本工事を開始しました。

当センターは、地下1階地上2階の3階建て、延べ床面積1万3千坪を超える大型物流施設で、東名高速道や主要幹線道路である246号線に面し、首都圏および関東一円への広域輸配送拠点として絶好の立地にあります。

クロスドッキング効率を高める着車バースの全階設置、低床バースの一部採用、防塵床など

食品関連へも対応できる高機能仕様で、既存の緑地を保全し周辺地域への環境配慮にも優れた施設です。また、屋上には1メガワット級の太陽光発電設備の設置も予定しています。



コスモス薬品様向け物流センターを 香川に続き愛媛にも開設

4月

(SBSロジコム)

ドラッグストア大手のコスモス薬品様向けに愛媛センターを開設し、センター運営から配送までの3PLサービスを提供。80店舗まで対応できる体制を整え、同社の出店戦略を支援してまいります。



大型車両基地、 阿見営業所が完成

11月

(SBSフレック)

雪印メグミルク様の新工場から全国へ輸配送業務を行う大型車両基地が茨城県阿見町に完成。国内最大規模の同工場で生産された全ての乳製品の輸配送を2014年2月から24時間体制で開始します。



太陽光発電事業への 本格的な取組み

8月

(SBSグループ)

千葉県芝山町に3メガワットのメガソーラー発電所が完成。野田、川越、千曲の物流センター屋上設備も稼働し、発電能力は5メガワット規模になりました。今後も太陽光発電事業を拡大してまいります。



銀座の新名所、GINZA KABUKIZAの 静脈物流を担います

11月

(SBSサポートロジ)

「GINZA KABUKIZA」としてリニューアルした歌舞伎座。オフィスタワーを併設する大型複合施設に計画時から参画し、徹底した再資源化などで同施設の環境性能向上に貢献しています。



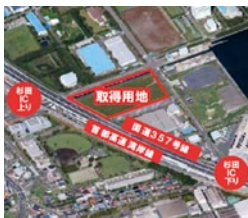
※静脈物流 物流の世界では消費や生産のための物資の供給を動脈物流と呼び、不用機器・家具や使用済み容器、残滓などの廃棄物の回収を静脈物流と呼んでいます。

横浜市磯子区に5千坪の 物流用地を取得

10月

(SBSロジコム)

横浜市磯子区の鉄道、高速、港湾に近接した好立地に物流用地を取得。この土地に国際物流を核とする1万坪規模の高機能な物流センターを建設し、2015年に完成予定です。



安全知識と運転技能の向上に向け、 グループ初のドライバーコンテストを開催

11月

(SBSゼンツウ)

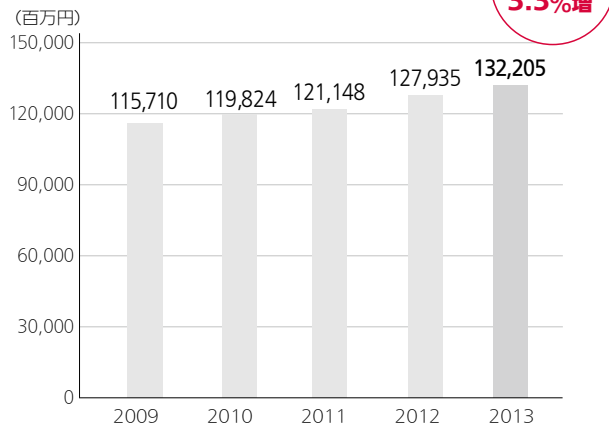
安全最優先の原則のもと、事故撲滅と輸送品質向上を図る教育研修の一環として、ドライバーコンテストを初開催。競技形式のため、参加者は自発的に事前練習を行うなど、意識の向上も期待できます。



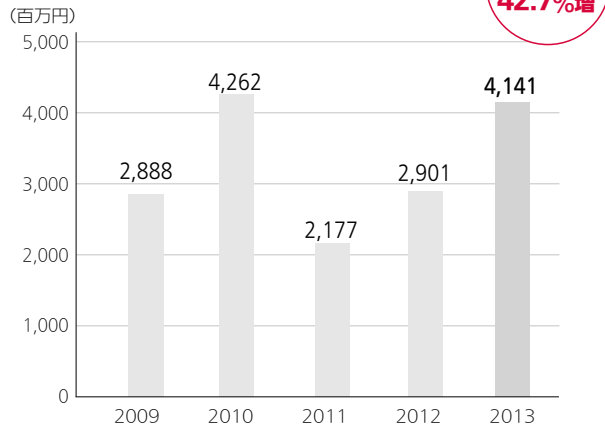
当期の連結業績

海外景気に対する不安感などにより先行き不透明な状況が続くなか、3PL事業のさらなる拡大をめざし提案営業を積極的に展開したことや、物流施設信託受益権の一部を譲渡したことにより、売上高は増収、営業利益および経常利益は増益となりました。一方、物流センター移転・集約やブランド統一にかかる費用などにより、当期純利益は減益となりました。

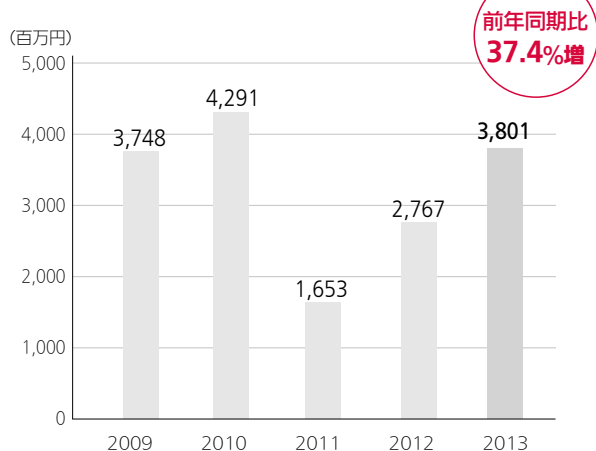
■ 連結売上高



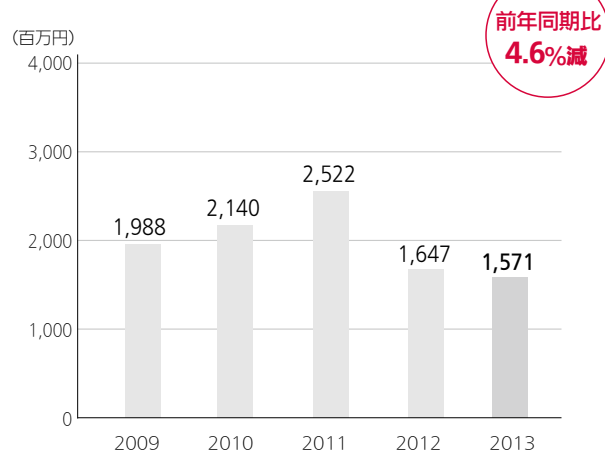
■ 連結営業利益



■ 連結経常利益



■ 連結当期純利益



■ セグメント別概要

(単位:百万円)

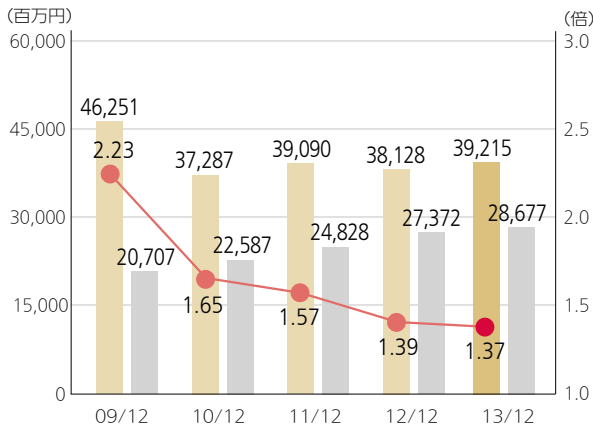
	2013年通期		2012年通期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
物流事業	120,786	1,219	119,330	1,728
不動産事業	5,554	2,550	2,504	1,206
その他事業	5,865	202	6,100	44
調整額	—	169	—	△79
合計	132,205	4,141	127,935	2,901

● **物流事業**：営業活動の強化や年後半からの回復により、売上高は増収となりました。また3PL業務向け物流センターの開設や既存の物流センターの移転・集約に取り組みましたが、前半の収益悪化が影響し、営業利益は減益となりました。

● **物流支援事業**：不動産事業は、物流施設開発において私募ファンド方式による流動化を実施し、増収増益となりました。一方、その他事業では新規事業である太陽光発電の売上が加わりましたが、発送代行事業の子会社を連結対象外とした影響により減収となりました。営業利益は、人材事業の黒字化などにより増益となりました。

■ ネット有利子負債／株主資本／ネットDEレシオ(右軸)

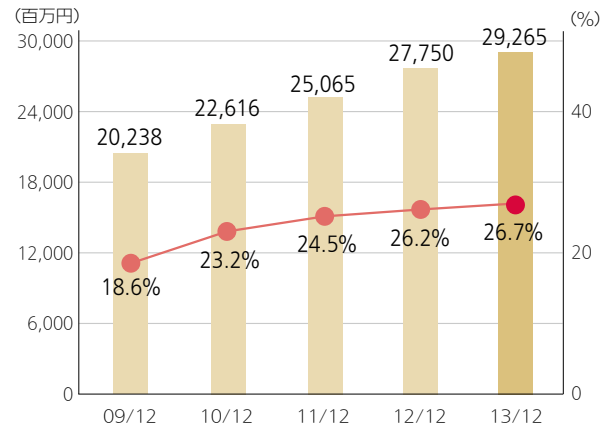
■ ネット有利子負債 ■ 株主資本 ● ネットDEレシオ



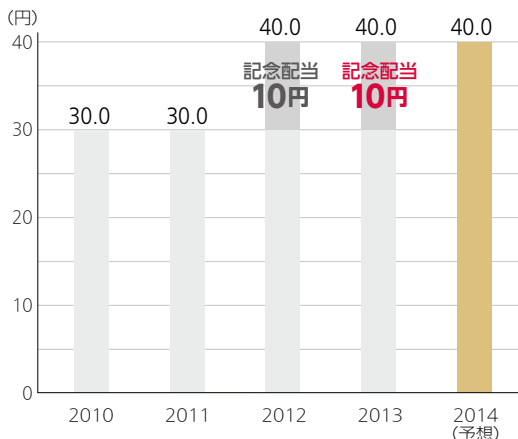
※ネット有利子負債＝長期・短期借入金＋社債－現預金
 ※ネットDEレシオ＝ネット有利子負債÷株主資本

■ 純資産／自己資本比率

■ 純資産 ■ 自己資本比率



■ 配当金の推移



※1株当たり配当金につきましては、株式分割・単元株制度移行後の金額を記載しています。
 ※2012年の記念配当は、東京証券取引所市場第二部への上場を記念して実施したものです。

■ 利益配分に関する基本方針

SBSグループは、株主の皆様への利益還元を経営の最重要施策のひとつと位置付けております。より強固な経営基盤の構築と株主資本利益率の向上を図ることにより、業績に配慮しつつ安定的な利益還元を努めています。

2013年12月期は、東京証券取引所市場第一部への上場を記念し、1株当たり普通配当30円に10円を加えた40円を配当金といたしました。2014年12月期につきましても引き続き、1株当たりの配当金を40円とさせていただく予定です。

来期 (2014年12月期) の連結業績予想

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS (Forecast)

売上高

135,000 百万円 (当期比 2.1%増)

営業利益

4,600 百万円 (当期比 11.1%増)

経常利益

4,200 百万円 (当期比 10.5%増)

当期純利益

2,500 百万円 (当期比 59.1%増)

■ セグメント別

(単位:百万円)

	物 流	不 動 産	そ の 他	消 去 等	合 計
売 上 高	123,500	5,300	6,200	—	135,000
増減率	+2.2%	△4.6%	+5.7%	—	2.1%
営 業 利 益	1,950	2,400	250	0	4,600
増減率	+60.0%	△5.9%	+23.8%	—	11.1%
営 業 利 益 率	1.6%	45.3%	4.0%	—	3.4%

※業績予想の数値は、セグメント間の内部売上高を含んでいます。

■会社概要 (2013年12月31日現在)

社 名 SBSホールディングス株式会社
 代表取締役 鎌田 正彦
 創 立 1987年12月16日
 資 本 金 39億298万円
 売 上 高 1,322億円(2013年12月期連結)
 所 在 地 〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3
 TEL:03-3829-2222(代表)
 FAX:03-3829-2822

事 業 内 容 物流事業、不動産事業、マーケティング事業、
 人材事業 他

主要連結子会社 SBSロジコム株式会社
 SBSフレック株式会社
 SBSゼンツウ株式会社
 SBS即配株式会社
 SBSスタッフ株式会社
 アトラス ロジスティクス プライベート リミテッド
 SBSサポートロジ株式会社
 SBSファイナンス株式会社
 株式会社エーマックス
 マーケティングパートナー株式会社
 株式会社ばむ

■役員 (2014年3月26日現在)

代表取締役 鎌田 正彦
 常務取締役 入山 賢一
 取締役 杉野 泰治
 取締役 渡邊 誠
 取締役 関本 哲也
 常勤監査役 渡邊 進一郎
 監査役 正松本 重孝
 監査役 竹田 正人
 監査役 岩崎 二郎

取締役のうち、関本哲也は社外取締役です。

監査役のうち、正松本重孝、竹田正人、岩崎二郎は社外監査役です。

■株式の状況 (2013年12月31日現在)

発行可能株式総数 51,568,400株
 発行済株式の総数 13,204,400株
 (単元未満株式500株を含む)
 単元株制度の有無 有
 株主数 3,292名

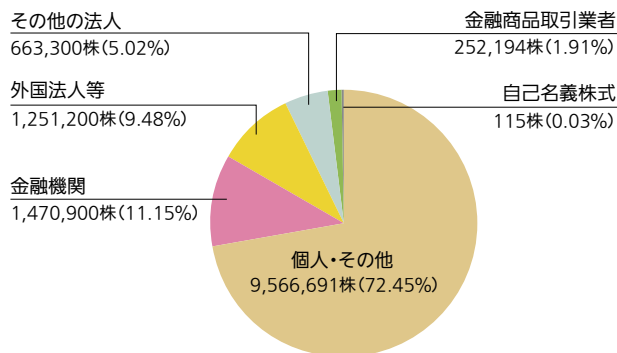
■大株主の状況 (2013年12月31日現在)

株主名	持株数	持株比率(%)
鎌田 正彦	5,962,800	45.15
SBSホールディングス従業員持株会	576,300	4.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	429,300	3.25
株式会社SMBC信託銀行	400,000	3.02
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニパス アカウント	334,800	2.53
大内 純一	309,400	2.34
東武プロパティーズ株式会社	275,600	2.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	264,700	2.00
伊達 寛	215,900	1.63
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	200,000	1.51

※日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)は、従業員持株会信託における再信託先であり、従業員持株会信託口が保有する当社株式221,100株を含んでおります。

■所有者別株式分布状況 (2013年12月31日現在)

(発行済株式総数:13,204,400株)



SBSグループのCSR活動の取り組みや成果について

SBSグループでは、安全対策や環境保全などの重要な経営課題に対する1年間の成果報告、および次の目標や課題への挑戦の意思表示を「CSR報告書」としてまとめ、毎年発行しております。

同書は下記URLよりダウンロードしてご覧いただけます。是非、ご高覧下さい。

<http://www.sbs-group.co.jp/hdg/csr/>



株主メモ

事業年度 1月1日～12月31日

期末配当金受領株主確定日 12月31日

定時株主総会 毎年3月開催

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

公告方法 公告掲載URL <http://www.sbs-group.co.jp/>

※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 **SBS ホールディングス株式会社**

〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3 オリナタワー
TEL:03-3829-2222(代表) FAX:03-3829-2822

**UD
FONT**

 **VEGETABLE
OIL INK**

 **ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C004858**